

## “アムネスティは、獄中にいた私たちの希望でした”



インド人の医師であるアラシュさんとカミアさんがアムネスティに感謝の手紙を送ってくれました。

「皆さんの支援のおかげで、私たちは釈放され自由の身となりました。家族を通じて受け取った皆さんからのメッセージは、心臓を動かす新しい血液のようでした。私たちの心を温め、苦難に耐え困難にも折れないエネルギーを与えてくれました。

自分たちの行動が正しいと信じるならば、囚われの身になっても、政府に認められなくとも、命の限りやり続ける大切さを学びました。

皆さんのご助力のおかげで、私たちは家族や仲間と喜びの再会を果たすことができました。皆さんからいただいたこの優しさに、私たちは同じような境遇に苦しむ声なき人びとを代弁することで、答えていきたいと思えます。そして、皆さんの考え方を広めていきたいと思えます。私たちの自由のためにキャンペーンを行ってくださった皆さんに、心の底から感謝いたします。」

## 冷国权さんの死刑に逆転判決が出ました



11月23日、中国の再審に関する明るいニュースが入りました。遼寧省丹東市の中級裁判所は、冷国权さんの死刑判決を取り消し、終身刑としました。拷問や公平性を欠く裁判が行われたという疑惑は残るものの、この判決自体はとても前向きな動きです。

海産物商の冷さんは、2009年12月16日に丹東市の人民裁判所で死刑判決を受けました。冷さんは、密輸と麻薬取引に関与した犯行グループのリーダーとして裁判にかけられました。しかし、その裁判は目撃者の証言だけによる不公正なものであり、目撃者も、後に証言を撤回したり、実は拷問にかけられていたことが発覚したりしています。冷さんは一貫して容疑を否認しており、拷問されたために自白したと述べています。

アムネスティでは、私たちの活動がこの件に与えた影響を調査しており、それによって次のアクションを決定する予定です。

## ロバート・キングさんがアムネスティを訪れました

アルバート・ウッドフォックスさんとハーマン・ウォレスさんは米国ルイジアナ州のアンゴラ刑務所で、40年近く独房に収監されています。ロバートさんも2001年まで同じように収監されていましたが、今は釈放されています。ロバートさんは、アルバートさんとハーマンさんの置かれている状況を世間に広く伝える活動をしており、11月にはアムネスティの国際事務局を訪れて、どのようにして世界中の人びとに、キャンペーンに参加してもらおうかについて話し合いました。

ロバートさんは、1960年代に3人がブラックパンサー党（黒人の過激派組織）の党员だった頃からの状況を説明してくれました。彼らは、関与していない強盗事件の罪で60年代に投獄されました。獄中で3人は、当時のアンゴラ刑務所では日常茶飯事だった差別や虐待、腐敗した管理体制に抗議するために、ハンガーストライキや労働拒否ストライキを起こしました。ところが1972年、3人は看守が殺された事件で有罪となり、以後40年の大部分を独房で過ごしています。

ロバートさんは、彼らは政治的な主張のために不当に事件に巻き込まれてしまったと話します。重要な目撃者が刑務所の職員によって買収され3人に不利な証言をしていた

ことや、ルイジアナ州政府がもう一人の目撃者の偽証を公表せずに行ったことが、何年も前から表面化しているのです。

これからの6か月は、アルバートさんとハーマンさんにとって正念場となります。来年4月17日で独房監禁は40年となり、2人の控訴尋問もこの春に行われる予定です。これらの日程に先立ち、ロバートさんはアムネスティのメンバーがアクションを起こし、獄中にいる彼らのことを忘れていないとルイジアナ当局に示すことや、独房からの移転を求めることがとても重要になると述べました。

アムネスティの各支部ではすでに、1万を超える嘆願書への署名が集まっていますが、さらに多くの人びとの署名を集めることが必要です。集まった署名は、監禁40年目を前にルイジアナ当局へ送付する予定です。署名の受付サイトは以下の通りです。ご協力をお願いいたします。

<http://www.amnesty.org/en/appeals-for-action/justice-for-albert-woodfox-and-herman-wallace>

## カマル・アル・ラブワニさんが釈放されました！



シリアの平和活動家、カマル・アル・ラブワニさんが11月15日の朝、釈放されました。カマルさんは、首都ダマスカス近郊のアル・ザバダの家族の元に戻りました。家族は再会をととても喜んでおり、カマルさんの釈放を求めてキャンペーンに参加してくださった方々に感謝を伝えて欲しいとのことでした。

## ラモ・ツォさんがアムネスティを訪れました



11月21日に、チベットの映画制作者ドゥンドゥップ・ワンチェンさんの妻、ラモ・ツォさんがアムネスティの国際事務局を訪問しました。今回の訪問では、ドゥンドゥップさんの現状とラモさんの活動の確認をしな

がら、アムネスティがどのように釈放に向けて取り組むかについて話し合いました。ラモさんは2週間、欧州各国の政府や各種組織を訪問し、ドゥンドゥップさんの件で、中国政府に圧力をかけるよう要請する活動を行っており、ロンドンが最終目的地でした。

ドゥンドゥップ・ワンチェンさんは、北京オリンピックとダライラマに対するチベット人の思いを、ドキュメンタリー映画として制作したとして2008年3月に拘束されました。容疑不明のまま1年以上拘束された後、2009年12月に6年の懲役刑を言い渡されました。

ドゥンドゥップさんに関する情報の入手が難しいため、ラモさんの報告内容に進展はほとんどありませんでした。しかし、アムネスティの活動がとても重要であり、これまでの国際的な圧力によって、今年、ドゥンドゥップさんの刑務所での労働時間が削減されたと伝えてくれました。ラモさんはアムネスティの活動に感謝し、引き続き手紙を中国当局に送るように要請しました。

アムネスティの職員にとって、ラモさんに会い、活動の報告を受けたこの日は、感動的なものでした。

今はインドにいるラモさんの4人の子どもと、ドゥンドゥップさんの両親も、アムネスティのメンバーからの励ましの手紙を楽しみにしているとのことでした。

今後も引き続き、ドゥンドゥップさんの活動へのご協力をよろしく願います。

## UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F  
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778  
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000円  
郵便振替 00120-9-133251  
加入者名 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本